

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホームハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	平成30年8月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2018_022_kami%21rue&amp;ji_gvosyoCd=2170200485-00&amp;PefCd=21&amp;Ver:si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2018_022_kami%21rue&amp;ji_gvosyoCd=2170200485-00&amp;PefCd=21&amp;Ver:si_onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年9月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームは周りが自然に囲まれた環境であり、四季折々の草花が咲き、自然を身体いっぱいを感じる事ができます。特に敷地内には畑が3箇所あり、ご利用者様と一緒に家庭菜園ではその季節にあった野菜や果物を育てて収穫し、調理して食卓へと提供する事を行っています。野菜作りでは季節を感じて頂くと共に作る楽しさや収穫する楽しさ等も感じて頂いています。又、食事は提携業者からの料理を提供する事で変わらぬおいしさや安心した栄養バランスを実現しています。さらに食に関しては、食べ物を作る機会をなくさない様、月に1度おやつ等を作る行事を実施しています。ボランティアの協力によるお楽しみ会を月に1回開催し、民謡やマジックショーなど様々な活動を観賞したり、絵手紙や手芸など物作りもボランティアの先生を招き行っています。さらに併設施設との交流により相互にお楽しみ会等の催し物の活動に参加しています。又、施設内の活動のみではなく、地域との交流が図れるように年に1回地域交流会を開催する事や地区のお祭りへの参加など地域との交流も積極的に実施しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人の理念を基に今年度は、「地域との交流」と「ADLの向上を目指したアクティビティで計画にあげる」と事業所の目標を掲げ、日々実践している。利用者の意向を尊重しながら、野菜作り、ご詠歌クラブ・茶華道クラブ、パッチワークの敷物作りや吊り雛飾り等を取り入れ、楽しみとなる日中活動にしている。事業所の取り組みを地域に発信し、利用者の生きがいにつながる機会として、作品は地域の文化祭に出展している。地域交流会は大勢の住民が参加して、中高生・地元商店やボランティアの協力にも支えてもらい地域行事にまでしている。併設施設の研修機関や協力体制があり、職員は各種委員会に所属し自己研鑽する仕組みがある。日頃の言葉遣いは特に注意し、身体拘束ゼロに向けて、職員で振り返りながら質の向上に取り組んでいる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を事務所と玄関先に掲示する事で職員は常に理念を意識して業務を実施している。又、個人の目標を半年に1回立案しているがその目標は部門の目標を、部門の目標は法人の理念を達成する為にあり全員が同じ方向性で業務に当たっている。	法人の理念を基に事業所の目標と職員個々が目標を立てて、日々実践している。地域との交流を図り、一人ひとりの思いを大切に笑顔で接するサービスを提供しているが、事業所の理念ができていない。	地域密着型サービスとして事業所の役割をふまえて、具体化し意識して取り組めるような理念を、職員全員で話し合い検討されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回多種多様なボランティアによる活動や年に1回開催する地域交流会など行事の工夫を行いながら地域と関わりが持てるように実施している。又、運営推進会議には民生委員や苦情相談員、地域包括支援センター職員などの協力を仰いでいる。	事業所主催の地域交流会は大勢の住民が参加して、中高生・地元商店やボランティアの協力にも支えてもらい住民と楽しんでいる。地域行事の夏祭り・左義長や文化祭等に出掛け、住民と交流する機会にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の福祉大学や看護学生の実習先として公開し次世代の育成に努めている。又、地域の小・中・高の学生のボランティア活動の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご利用者様の日々の活動の報告や行事を運営するに当たってご家族様との相談、ご利用者様やご家族様からのご意見を頂いています。会議で得た情報はワーカー内で共有し業務改善やケアの質の向上を目指しています。	苦情相談員・利用者や多くの家族も参加し、事業所の行事報告や予定を伝え、感想を聞いて意見をもらっている。地域役員やも参加し、外出先の助言をもらい、出かけることができた。欠席の家族に議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回開催する運営推進会議にて高齢福祉課職員と地域包括職員に参加して頂き、情報の共有を図っています。	介護相談員を受け入れている。空き情報等のメールでのやりとりや書類提出時は市に出向き実情を伝えている。法人内の地域包括支援センターとの連携ができており、随時情報交換し困り事の相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権擁護委員会を中心に身体拘束0を維持するための取り組みを行っています。グループホームでは特に言葉による拘束に重点を置き職員間でも声を掛け合っています。又、鍵の施錠については夜間帯のみ実施しています。	人権擁護委員会や身体拘束ゼロ委員会にて、毎月目標を定め反省点を話し合い拘束しないケアに努めている。日頃の言葉遣いは特に注意し、気づいた時は、その場で注意し合っている。夜間のみセンサーマット使用する人には、すぐ訪室し転倒を予防している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で実施される研修や外部機関が実施する研修会への参加を通して知識の向上を図っています。又、玄関先にパンフレットを置き、ご相談があった時には説明をするようにしています。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内での研修会や外部機関が開催する研修会で学んだ知識を会議の場を活用して伝達し理解を深めている。又、上司や先輩職員からのアドバイスも随時実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす時はご家族様のペースに合わせて説明を行い、要所要所で疑問点がないか尋ねたり表情を確認しながら疑問点が残らないような説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中から出てくるご利用者様の気持ちを拾い上げ情報共有すると共に、運営推進会議の場でもご意見がいただける様に対応している。	利用者の健康状態や生活状況の詳細を近況報告書として家族に渡し、意見をもらいやすくしている。面会時には必ず声かけし意見を聞いている。職員名と顔が一致しないの意見から玄関に名前入り顔写真を掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回目標の反省と共に面談を実施。職員の思いや改善に関する意見をもらっている。又、随時気が付いた時に相談・報告できるように対応している。	日常の業務内で意見が言いやすい関係がある。月1回のグループホーム会議で意見を出して話し合っている。姿勢保持用クッション・消耗品等の購入や、勤務時間の変更の要望を取り入れ、改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の目標に沿った部門目標・個人目標を設定し、各職員のやる気を引き出す取り組みを行っている。又、日々の業務の姿や個人面談を経て職員一人ひとりを適切に評価する事でキャリアアップの支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催している職場内研修を通して知識向上を図ると共に外部研修への参加も積極的に行っている。OJTによる業務指導や新人職員に対するスキルアップ表の活用も行っていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、他施設との意見交換や交流を図っています。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際、落ち着いて話ができる環境になるように場所を配慮し、利用者・家族様共に思いを傾聴する様努めています。傾聴した思いは事前面接記録を通し全ワーカーで周知しています。さらに担当職員を中心にご本人が安心できる関わりを考え実践しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接やサービスの契約の時に家族の思いや不安・困っている事などを傾聴すると共に必要な時には助言をしながら関係性の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の話を聴きながら、思いやニーズを引き出し、併設施設の相談員とも連携を図りながら利用者・家族にとってより良いサービスを利用して頂けるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の意見で外出をし、一緒に喫茶を楽しんだり、家庭菜園やグループホーム内の掃除をする。さらにはご意見を聞きながらおやつを一緒に作る等職員・利用者共にグループホームでの生活の時間を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の中で面会に来所した時や年4回発送する近況報告書にてご利用者様の様子をお伝えしています。又、年2回開催する家族会(外出行事・運動会)さらに地域交流会ではできるだけ多くのご家族様に参加して頂き、利用者・家族・職員が同じ時間を共有できるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム入所後も外泊や外出が自由に行える事を家族へ発信し、ご本人の馴染みの関係性が途切れないように促しています。又、本人の希望がある時には馴染みのお店での買い物も対応します。	隣接するデイサービスセンター利用の知人に会いに行ったり、公衆電話をかけに行ったりする支援をしている。親族や友人の面会時は居室でゆっくりしてもらっている。家族の協力を得て墓参りや自宅に行く場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々食事やアクティビティで利用者同士が関わり合っていると共にそれ以外の時間でもお互いに交流できるように関わっています。又、利用者同士で関わる姿が見られる時には継続できるように支援しています。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後もお楽しみ会や地域交流会へ気軽に参加して頂けるよう声掛けを行っています。又、ご家族様によってはボランティアとしてご協力頂く時もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接記録からの要望の確認や日々の会話の中での思い等から利用者の意向を把握し対応をしています。聞き取れた思いはケース記録に記載すると共に全ワーカーと情報共有を行っている。	話したいような素振りを見逃さず、そつと声かけし話しやすい雰囲気にして聞いている。他の利用者の視線や声を気にする人には、居室や夜間に聞く場合もある。選択しやすい問いかけで思いを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接の際に家族からの聞き取りやご本人からの聞きとり、生活歴や環境、馴染みの暮らしの把握を行っています。面接を担当した職員が作成する事前面接記録を基に全ワーカーが情報を把握すると共にホームでの生活の中で知りえた新たな情報がある時にはケース記録に記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用様の日々の変化をケース記録に記載すると共に、月に一度ケアプランのモニタリングをケアマネジャーと相談し実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや要望を聞き、担当職員・家族・ケアマネ・医師・看護師と連携を図りながらご本人のニーズが反映されるよう検討してケアプランをケアマネが作成しています。月1回のモニタリングと半年に1回のカンファレンスを通してプランにズレがないか検討している。	利用者や家族の思いを尊重し、自立に向けた介護計画を作成している。モニタリング表は短期目標を付番し、プラン実践状況や目標達成状況を記入しやすくしている。グループホーム会議にて全職員で現状確認し、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や職員からの気づきをケアマネに伝え月1回モニタリングを実施し、さらには半年に1回ケアプランの評価を行っている。それらを踏まえて半年に1度カンファレンスを開催しプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応は基本的に家族送迎であるが、車椅子での受診など通常の車では難しい時には可能な範囲で送迎対応も行っている。又、車椅子やシルバーカーなどの福祉用具も併設施設と協力し、本人に合っていれば併設施設の物も使用可能である。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民謡やフラダンスなど地域のボランティア活動を活用して毎月のお楽しみ会を開催し利用者様に楽しんで頂く時間を設けています。又、近隣でのお祭りや行事がある時には積極的に参加できるよう計画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前面接時にかかりつけ医について家族の要望を確認し対応しており、協力医療機関以外でも受診に行く事は自由です。「かかりつけ医」の連携の下、体調管理・体調不良時の24時間体制、重症時には地元総合病院への紹介連絡協力も行う。	かかりつけ医受診時は、家族に健康状態を口頭又は書面で伝え、受診後報告を受けている。協力医は月2回の訪問診療があり、24時間指示がもらえる関係がある。希望で歯科の訪問診療を利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回バイタル測定に併設施設から看護師が来所、体調の把握・管理を行っている。又、日々の体調の変化などはその都度看護師へと報告し本人に合ったケア実施している。夜間帯に体調の変化についても連携を図り急変時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は職員が週1回の間隔で面会に訪問し看護師や家族、医師と情報共有をすると共に、本人や家族の相談対応も実施する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と24時間、365日の連携体制を確立。又、併設する特養看護師にも24時間連絡を取る体制にある。家族には夜間付き添いなどの協力を依頼し、協力医・看護師・家族・職員と連携しながら終末期ケアを整えている。	入居時に「看取り介護に関する指針」で説明している。状態に合わせて家族に医師、看護師が説明し看取りもしている。家族の宿泊も受けている。夜間は併設する特養の協力体制がある。摂取量が低下してきた人には医師の指示で栄養剤を補給している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員を中心に年に2回内部研修を実施。急変時に備えて心肺蘇生法やAEDの使用についての訓練などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設で開催する年2回の全体の避難訓練とグループホームのみで実施する年2回の避難訓練、計年4回防災訓練を実施。訓練内容も工夫しながら臨機応変に対応できるように努めています。	避難訓練の実施前に図上訓練を行い、落ち着いて行動できるようにしている。電灯やラジオ等を入れた防災袋や防犯の刺又を設置し、水や食品等の備蓄もしている。訓練時に住民の協力が得られていない。	併設する施設の協力体制はあるが、住民の協力が得られるように様々な機会に働きかけていく努力が望まれる。

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様と関わる時は人生の大先輩である事を常に念頭に置き、丁寧であると共に親しみが持てるような言葉を選択するようにし、会話をする目線はご利用者様と同じ高さになるように心がけています。	利用者が一人である時間を大切に、時間に配慮し入室時は必ずノックしている。名字又は名前で〇〇さんと呼び、その人に合った話し方や声かけの工夫をしている。顔写真は同意を得た人のみ掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員を中心にご利用者様の思いを聞きとり全ワーカーで共有をしています。ご利用者様に応じて自己選択が行えるようオープンクエストやクローズドクエストを活用しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の過ごし方はご利用者様の自由とし、希望時は居室で過ごす時間も大切にしています。アクティビティも提供しますが参加自由であり、中には見学する方もおられます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	委託先理美容業者の訪問日をお伝えし、カットや毛染めなど利用されています。又、髪の長い方についてはご本人と話をしながら髪の結び方や飾り方などを決めて整容しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや食材に触る間隔を続けていけるよう月に一度は必ずおやつ等食べものを作るアクティビティを開催しています。さらにご利用者の力を発揮できるように作るメニューや作り方等も皆様に聞きながら計画を立てています。普段の生活の中では食事の盛り付けなども協力して行っています。	畑で収穫した野菜を利用者と相談し調理したり、漬け物や佃煮にしたりしている。月1回はおやつを手作りし、食卓やお盆拭き・盛り付け等を利用者と一緒に行っている。TVを見たり音楽を聞いたりしながら、職員も一緒に話し、楽しく食事がとれるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者からの食材を提供する事で一日を通して栄養バランスの取れた食事を提供しています。又、一日の中で小まめな水分補給が出来るように食事以外にもお茶などを提供しています。ご利用者によっては副食をあまり食べられない方もおり栄養補助食品なども活用して対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と臥床時は歯ブラシを使用した口腔ケアを実施しており、食後については洗浄液を使用した嗽を行っています。必要な方へは職員が見守りや介助に入り義歯洗浄なども行います。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身からあまりトイレを利用されない方については定時の声掛けを実施すると共に日中の様子から定時以外にもトイレをお誘いし、ご本人にとって良いタイミングを見つけさせるように努めています。	一人でトイレ排泄ができるように、トイレの場所をわかりやすいように表示している。夜間のみポータブルトイレを使用する人もいる。その人に合ったパッドの種類を検討し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量の基準を目安に水分摂取が出来るように促しています。又、水分だけでなく日々の活動の中で体操や散歩を取り入れ身体を動かす場面を増やしています。ご利用者様によっては毎日ヤクルトを1本飲用されています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2回は入浴が実施できるように週の予定はたてていますがその日の気分や体調に合わせて臨機応変に対応しています。又、入浴時には周りを気にせずじっくりとお話して下さったり歌を歌うなど楽しみを持って頂けるように支援しています。	職員が1対1で対応し、一人ひとりがゆっくりと入浴できるようにしている。併設施設の大浴場で温泉気分を味わったり、柚湯に入って季節を楽しんだりしている。足浴や夜間入浴の希望にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や活動の後など希望される時は自由に居室で静養して頂いたりソファで過ごすなど身体を休める時間も大切にしています。休息だけでなく日中の生活にメリハリが持てるように声掛けの支援も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はグループホーム内でお預かりし、管理すると共に医師の指示にて適切な配薬をしています。新しく処方された薬は職員間で把握できるように処方箋の確認と共に申し送りも行います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店や買い物など外出を希望される時には日程の調整をしながら外出が行えるように支援しています。又、生活の中での役割として洗濯物や掃除、食材の盛り付けなど様々な活動をご利用者様と一緒にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的な買い物や喫茶店など外出の支援や地域で開催されるイベント等催し物への参加、家族会などを実施してご利用者様の要望に沿った支援を行っています。	利用者の希望で買い物や喫茶店に行っている。桜やあじさい見物・百年公園・和紙の里会館・苺狩り・祭りや地域のイベント等に出かけ、四季折々の風景を楽しんでいる。併設する施設敷地内の散歩・洗濯物干しや野菜作り等で外気に触れる機会がある。	

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホーム内での預かり金から外出時など希望される時に自由に使用できるように支援すると共に、希望される方へは個人の財布でお金を所持して頂く事も可能です。又、アクティビティを通じてお金を使う感覚を忘れないよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者・家族の希望で携帯電話を所持している利用者があり、好きな時間に電話を掛けたりし会話を楽しんだり安心感を持って頂いています。又、その他の方でも気持ちをお伝えできるように近況報告書を送る時等にご利用者様の気持ちを一緒に添えたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲が自然に囲まれた環境を活かし、皆さまが過ごす共用フロアでは四季を感じて頂けるよう外の環境整備も行っています。又、室内は常に明るく外気が入るように調節しています。	利用者が生けた花や季節の絵手紙・壁面飾りで季節感がある。ソファには利用者手作りのパッチワークのカバーをかけ、畳の部屋で新聞や雑誌を読んだりして自由に過ごしている。温湿度計を置き室温に配慮し、適度に換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にはテーブルだけでなくソファも設置し好きな場所を選択して過ごして頂いています。ご利用者様同士の会話ができるように席の配慮を行い必要な時にはテーブルの配置などの変更も行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前面接の時にご利用者様が安心して暮らして頂けるように馴染みの物(家具など)を持参して頂ける様に説明し、居室内の配置は本人・家族・職員で相談しながら決定しています。又、居室ないの飾りや写真など新たな物の掲示も担当職員を通して自由に行っています。	使い慣れた寝具・TV・時計等を持ち込み、家族や自分の結婚式の写真・作品や色紙等を飾っている。日よけにヨシズをかけたり、夜間の照明よけに窓に布をあて灯りよけにして自分らしい居室にしている。居室で日記を書いたり本を読んだり、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様一人ひとりの状態に合わせた対応を心がけており、部屋が分からなくなる方には居室の入り口に表札をつけたり、トイレの位置を分かりやすくする様に大きな文字で表示する等工夫をしています。		